

設計 キノシタヒロシ建築設計事務所

施工 令和建設

竣工日 2023年3月1日

◎建物概要

建設地 鳥取県鳥取市

敷地面積 125.17㎡

延床面積 92.57㎡

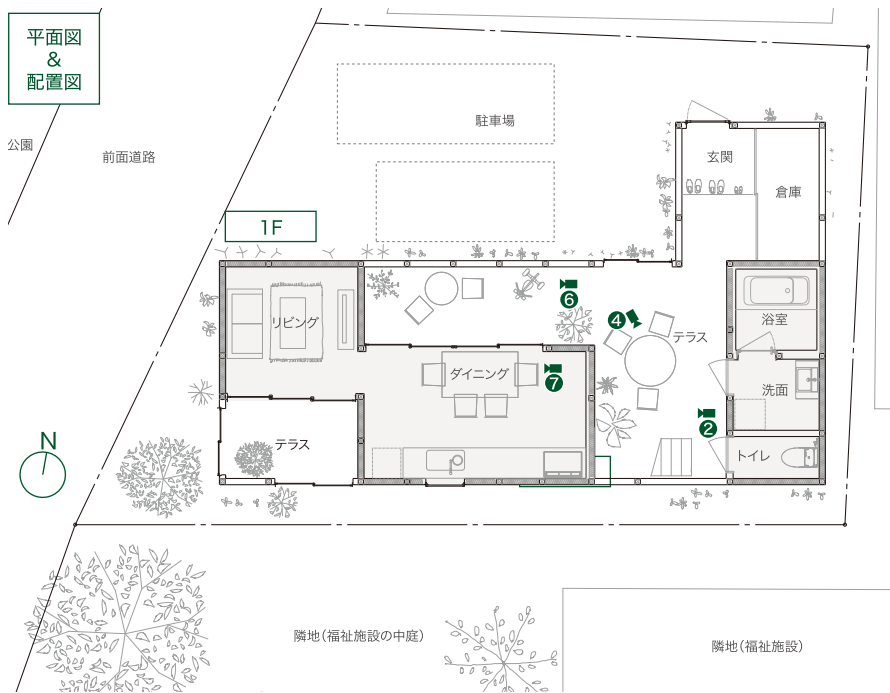
構造・規模 木造軸組2階建

◎設備面の特記

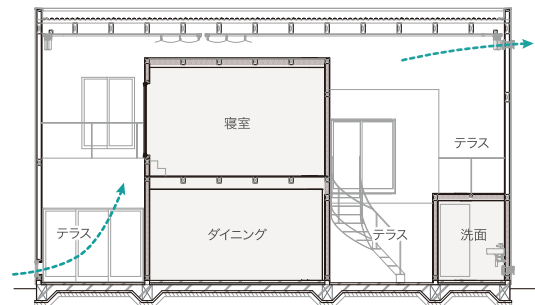
厨房機器 IHクッキングヒーター

給湯機器 ガス給湯器

冷暖房機器 エアコン

平面図
&
配置図公園
前面道路

断面図



設計コンセプト

敷地のある鳥取県は山側側と比べて雨の降る日数がおよそ2倍多く、積雪もあるため外部庭の有用性に恵まれていない。そこで、本来外部にある庭を屋内に取り込み、部屋と屋内庭を織り混ぜた住宅を提案した。屋根は全面半透明とした。それにより屋内庭は、純度の高い自然素材である陽光で満たされ、可動式テントの開閉の程度により日射量を調整し、屋根裏に設置した換気扇の排気風量を制御することで温度の調整を行う。入れ子状に設けた部屋にはしっかりとした気密性と断熱性をもたせた熱的境界を敷き、24時間換気を利用して部屋内の空気を循環させて快適性を保つようにしている。屋内庭にもソファ、書斎机、本棚、ハンモックなどの家具が置かれ、太陽光の下で読書したり子どもと遊ぶなどして過ごす。

空間の快適性を考えていくとき、面積を広げたり天井を高くしたりと空間の容積を大きくして開放性をもたせていく方法がある。しかし、山陰のような気候が厳しい地域では、空間の容積が大きくなると空調効率が落ちてしまい、より容量の大きなエアコンやストーブが必要になる。この住宅では核となる居住スペースは小さな気積でまとめ、それぞれを小さなルームエアコンで空調し、その空気を居住スペース内で循環させている。小さな気積の部屋と大きな気積をもつ屋内庭とを織り混ぜたような構成によって、温熱環境の厳しい季節は小さく暮らし、過ごしやすい季節にはサッシを開放してのびのびと過ごす。

審査委員講評

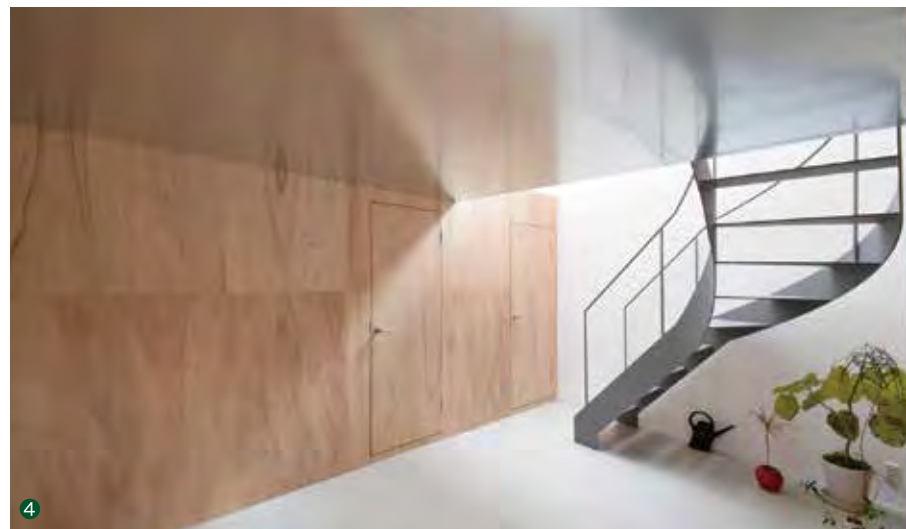
大きな気積の中に巧みに配された小さな居室によって、屋内にしながら外部を感じることができる豊かな住空間を実現している。この地における気候風土を加味した大らかな一室空間の構造と、コストコントロールを踏まえた材質の組み合わせにより、暮らしの多様さを生み出す意欲的作品である。



- ① 部屋と屋内庭が織り交ざる。大きな部屋を南側に寄せたり、部屋を浮かせて暗がりをつくることで、明るさが一様にならない生活の場を創りだした。
- ② 階段のある吹き抜けからも上から太陽光が降ってくる。



- ③ 2階寝室。積雪の時期の屋内庭は暗がりとなるため、屋内庭の壁色を白色に。部屋は落ち着いた色合いでまとめている。
- ④ 屋内庭はカフェテラスのような趣があり、雨の日の多い山陰でも明るい生活を送ることができる。



- ⑤ プライバシーを守るためにカーテンが閉じられると陰鬱な生活になりがちである。この住宅の屋内庭では、曇り空でも日光浴ができ、脳内のセロトニンの分泌を促しストレス軽減やうつ病の予防なども期待できる。
- ⑥ 冬場、屋内庭はサンルームのようにこの家を暖める。反対に夏場の日差しが厳しい季節には、テントを底のように閉じ、屋根裏換気により排熱。日陰となる箇所に設けた地窓から冷気を取り込む。
- ⑦ 核となる居住スペースは小さな気積でまとめ、それぞれを6畳のルームエアコンで空調。その空気を居住スペース内で循環させている。

